



2018年11月29日

アウディ、エアバス、イタルデザインが、フライングタクシーをテスト

- アムステルダムで開催されたドローンウィークで“Pop.Up Nextp が飛行及び走行デモを実施
- 調達及びIT担当取締役 Dr.マルテンス：「フライングタクシーは実用化に向けて準備中」
- アウディとエアバスが南米でヘリコプターを使ったオンデマンドサービスの試験運用を開始

2018年11月27日 インゴルシュタット/アムステルダム：アウディ、エアバス、イタルデザインの3社は、アムステルダムで開催されているドローンウィークで、空飛ぶ自動車“Pop.Up Next”のプロトタイプを初公開しました。フライングタクシー（空飛ぶタクシー）用のこの革新的なコンセプトは、自動運転機能を備えた電気自動車とパッセンジャー（乗員用）ドローンを組み合わせたものです。初めての公開テストでは、パッセンジャーカプセルを搭載したフライトモジュールが、地上に置かれたグラウンド（地上）モジュール上に正確に着地し、パッセンジャーカプセルをグラウンドモジュールに連結して、自動運転によってテスト会場から走り去りました。今回公開されたプロトタイプは1/4スケールモデルですが、早ければ10年以内には、大都市において、道路と空中を利用した便利で効率的なフライングタクシーサービスを利用できるようになるかもしれません。乗員は乗り換えをすることなく、レジャーを楽しんだり、車内でリラックスしたり、仕事をしたりすることができます。

AUDI AG 調達及びIT担当取締役 兼 子会社のイタルデザイン社長 Dr. ベルント マルテンスは、次のように述べています。「フライングタクシーは、実用化に向けて準備を進めています。私たちはそれを実現できると確信しています。現在、ますます多くの人々が都市に移住しています。自動運転が実用化すれば、さらに多くの人々がクルマで移動するようになるでしょう。将来的には、高齢者、お子様や運転免許のない人々が、便利なロボットタクシーを利用したいと思うでしょう。道路と空中をスマートに行き来できるようになると、人々だけでなく都市も恩恵を受けることになります」

このようなオンデマンドサービスがどのようなものになるのかを確認するため、アウディはエアバスの子会社であるブーム（Voom）と協力して、南米で試験運用を実施しています。顧客がメキシコシティまたはサンパウロでヘリコプター便を予約すると、アウディが着陸地点から、あるいは着陸地点までの移動手段を手配します。Dr.マルテンスは、次のように付け加えています。「このようなサービスは、お客様のニーズをより良く理解するのに役立ちます。将来的にフライングタクシーは、数多くの都市生活者にとって魅力的な移動手段となるでしょう。アウディは、“Pop.Up Nextp”によって、技術的に何ができるのかを模索しています。次のステップは、実物大のプロトタイプを飛行及び走行させることです」

さらにアウディは、インゴルシュタットにおいて、アーバンエアモビリティ フライングタクシープロジェクトと呼ばれるイニシアチブを支援しており、アウディの本拠地において、フライングタクシーの試験運用を行う準備を整えています。このプロジェクトは、欧州連合が推進するスマートシティ及びコミュニティ政策において、ヨーロッパイノベーションパートナーシップと呼ばれるイニシアチブを市場へと導入する取り組みの一環として行われています。このプロジェクトの目的は、新しいテクノロジーの利点を一般の方々に理解していただき、バッテリー技術、規制、認証、インフラストラクチャーに関する疑問に答えることです。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。